



牛丸 昭子さん

人々のつながり

昨今、人と人とのつながりが少なくなってきた様に思われます。近所で葬式があれば、班や組で男の人達は祭壇を準備し、女の人達はおとぎの準備と、老若かわらず協力し合い助け合い話し合いながら事を進めてきました。

時代は移り変わり、手間をか

けずにお金で事を済ませることが多くなり、少しずつ人と人との関わり合いが無くなってきました。

今、ボランティア活動への参加を通じて、人と人とのつながりを保てる様に、様々な人とのふれ合いを大切に、顔を知り、話が出る環境を創るため、自分の体と時間の許す限り、活動に協力できればと思っています。

古川町 牛丸 昭子

市民の声



荒川 彰二さん

自然の中で

私は、高校卒業後7年間、他県で過ごし、故郷が好きで帰って来て33年になります。6年前に大病をしました。今では毎日の散歩が日課となる程、良くならせていただいております。そんな中、ふと自然に目をやると、四季折々に変化する山々

が、私の心を癒してくれている事に気付く、太陽の光、風、水、大地、樹木等々大自然の恵みや営みによって、人々の生活が成り立っている事を、深感させられました。

慌ただしい毎日とは思いますが、これからも、自然に目を向けながら、生きさせていたいただけたら、ありがたいと、思っています。

宮川町 荒川 彰二



吉實 眞里子さん

おもてなしの心

昨年度の流行語大賞にもなった「おもてなし」。身近なところではお母さんが家族の好物の料理を作るのも「おもてなし」だと思います。お母さんは家族の喜ぶ顔が見たく

てお料理を作ります。

多くの方と接する機会が多くなる「おもてなしの心」が必要。な仕事柄、お客様にとってどういったサービスを提供するのが良いかをいつも心がけています。過剰なサービスは有難迷惑になり、不足すると不満になります。家族の好物なら熟知していますが電話の向こうの方や、初めて会う方となるとなかなかそうはいきません。電話の向こうの方の顔を思い浮かべながら日々仕事に励んでいます。

河合町 吉實 眞里子



米沢 英雄さん

飛驒に戻って思うこと

平成22年に名古屋から42年ぶりに生まれ故郷の神岡に家族でUターンして来ました。故郷に帰り嬉しかったことは、一番に地域の人達が歓迎会を催し、地域の仲間として

暖かく迎えてくれたこと。二番に生まれて初めて栽培したお米や野菜がおいしく実って収穫できたこと。三番に人情が厚く水と空気がおいしいことです。残念なことは学校を卒業し神岡を離れた同級生が近年定年を迎えたのに自然豊かで住みやすい神岡に戻る人がいないこと。人口減少に歯止めがかからない現在、もう少し早い時期にUターンの促進につながるよい施策があったのではと思う今日この頃です。

神岡町 米沢 英雄

編集後記

本年2月1日、飛驒市は合併10周年を迎えた。旧吉城郡で長い歴史を一緒に共にした2町2村であり、行政運営の違いも合併調整事項を擦り合わせて一緒になった飛驒市だが、地域文化が違うように市民の考えや声も微妙に違っていた。今までの10年は、市民生活に必要な施設整備を中心としたまちづくりであった感じが強い。これからの飛驒市に必要なことは、本当の意味で市民生活が充実し、活力が生まれるまちづくりが必要だ。閑話休題、毎年暮れに世相を表すその年の漢字が発表される。ここ10年は、災・愛・命・偽・変・新・暑・絆・金、そして記憶の新しい昨年は輪であった。希望を感じる文字と不安を感じる文字が交互に並ぶ。飛驒市の10年を漢字で表せば何だったか？いや、過去の振り返りはやめてこれから10年を表していきたい。私は真や信、飛や弾など明るい漢字が並んで欲しいと願う。

(福田 武彦)